

氏名	善生 まり子	部署	看護学科	職名	教授
研究分野	看護学				
学位	博士（看護学）				
学歴	1991年北里大学看護学部、1999年北里大学大学院 看護学研究科 修士課程（健康看護学）、2018年北里大学大学院 看護学研究科 博士後期課程（看護生涯教育学）				
経歴	1991年学校法人北里研究所北里大学東病院消化器外科（看護師）、1992年富士宮市役所保健センター（保健師）、1996年秋田市医師会立秋田看護学校（専任教員）、1997年秋田大学医療技術短期大学部看護学科（助手）、1999年学校法人北里研究所北里大学東病院 治験管理センター（看護師：非常勤）、保健同人社 電話相談（保健師：非常勤）、2001年公立大学法人埼玉県立大学 保健医療福祉学部看護学科（助手）、2005年同大学（講師）、2014年同大学（准教授）、2022年同大学（教授）				
所属学会（役職）	日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護学会、日本在宅ケア学会、日本認知症ケア学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会、日本老年看護学会、日本保健医療福祉連携教育学会、日本サルコペニアフレイル学会、日本地域看護学会、日本看護歴史学会、みんなの認知症情報学会、日本看護倫理学会、日本褥瘡学会				

【2025年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作(著書及びその他の著作物)							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名	発行等年月
1	看護研究をはじめる前に読む本	共著	あり	総合医学社, 151		善生まり子、高瀬裕子、松元智恵子、林三和子、茂木真由美、岩上広子、山口聡美、島田美穂、須長美代子、真々田美緒、高瀬博明、先山真弓、国吉春菜、田中久美子、中嶋吉男、小田島淳一	2025.10
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	特別養護老人ホームにおける介護職員との連携による認知症高齢者の易怒・興奮を緩和する看護師の実践	共著	あり		老年看護学 30(2)、63-71	阿部真純、善生まり子、林裕栄、丸山優	2026.1
2	皮膚・排泄ケア認定看護師が訪問看護師に行う褥瘡コンサルテーション	共著	あり		日本褥瘡学会誌、 28（1）、18-26	島田美穂、林裕栄、武田美津代、善生まり子、辻玲子	2026.2
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	A study of psychological safety on the nursing team of nurses and nursing assistants providing elderly care in general hospitals	単独	2025 International Council of Nurses Congress、Helsinki, Finland		○Mariko Zensho		2025.6
(4) その他							
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	草加市男女共同参画プラン2021 年次報告書及び達成状況の評価【令和6年度事業】「第2部 達成状況の評価」p50-59	共著	草加市ホームページ https://www.city.soka.saitama.jp/cont/s1402/R6nenzihyouka.pdf		○草加市市長、草加市男女共同参画委員（委員13名、うち善生まり子）		2026.2
2	高齢中国帰国者の介護保険サービス利用上のジレンマと苦悩：介護事業所職員の語りから	共著	2025年度奨励研究報告書		○善生まり子、蔡 思旋		2026.1

2. 競争的資金等の研究				
	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	インクルーシブ高齢者ケアに係る看護チーム業務分担・協働を支援するAI導入実証研究	研究代表者	2022.4～2026.3
2	公立大学法人埼玉県立大学共同研究	看護チームにおける心理的安全性を高めるためのAIロボット応用に関する研究	研究代表者	2025.4～2026.1
3	埼玉県立大学 奨励研究費	高齢中国帰国者の介護保険サービス利用上のジレンマと苦悩：介護事業所職員の語りから	研究代表者	2022.4～2026.4
3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	老年看護学Ⅰ（総論）	○	8	100歳高齢者の視聴覚教材を用いたり、ゲストスピーカーに地域の看護管理者を調整したり、高齢者の心身の特徴やライフサイクルの特性を多角的に教授することにより、人生の終焉を迎える高齢者への看護の深化に役立てた。フレイル予防を主眼に置いた元気高齢者へのヘルスプロモーションを含めた老年看護学の役割の幅広さに対する認識を高められるよう、教授した。
2	家族看護学	○	8	対面授業にて、家族看護理論をもとに現代の家族の役割・機能・課題の学びをとおして、家族看護の立場から専門職者の援助について理解を深められるよう、4 コマはオムニバスで小児、精神、老年、在宅の家族看護を教授した。家族機能についてより学びを深められるよう心身障害児・者家族らを対象にした視聴覚教材を活用した。
3	老年看護学Ⅳ（地域ケアシステム）		8	対面授業にて、老年看護学実習Ⅱの体験のリフレクションと同時に、地域連携における看護職の役割に関する学びの深化をめざして教授した。
4	IPW論（専門職連携実践論）① 博士前期課程		15	リアルタイム方式のオンライン学習により、「保健医療福祉分野における専門職連携教育（IPE）」を担当し、IPE背景理解の深化とIPEの動機づけ学習に寄与した。事例検討発表会及び全体討議のファシリテーションを行った。
5	老年看護援助論 博士前期課程		15	リアルタイム方式のオンライン学習により、退院調整をはじめとする高齢者の継続した療養生活に対する支援・システムなどを教授し、今後の老年看護援助の展望について討議した。
6	在宅看護学特論 博士前期課程	○	15	リアルタイム方式のオンライン学習により、在宅事例を通して、在宅の概念および在宅をとりまく家族環境の理解および、介護保険サービスによる療養支援について教授した。
7	地域ケア支援論 博士前期課程	○	15	リアルタイム方式のオンライン学習により、退院調整をはじめとする高齢者の継続した療養生活に対する支援・システムなどを教授し、今後の老年看護援助の展望について討議した。
8	保健医療福祉とリハビリテーション 博士前期課程		15	オンデマンド学習により、「一般病院（急性期）の看護職者による要介護高齢者とその家族への入退院支援」「回復期リハビリテーション病棟における看護職者の役割」「介護保険施設における看護職者の役割」を担当し、リアルタイム方式のオンライン学習で授業関連のリフレクションに寄与した。

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	老年看護学Ⅱ（援助技術）		15	自力で清潔保持できない高齢者（Aさん事例）への清潔援助について、Aさんが活性化する清潔の看護についてアセスメントできるよう、個人ワーク、グループワーク、リフレクションを取り入れた。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	老年看護学実習Ⅰ		2025年4月～6月	科目担当者として、実習施設である公立の老人福祉センターにおいて、学生が利用者とのコミュニケーションの機会、施設見学等を通して高齢者の心身・社会的側面の理解が深まるよう、実習指導者との連絡調整を密に行い、毎回のカンファレンスに参加した。
2	老年看護学実習Ⅱ	○	2025年10月～12月	科目責任者として、実習施設への依頼・実習指導者会の運営、学生への実習オリエンテーション開催等、統括した。各実習施設との綿密な連絡・調整により、医療機関または介護老人保健施設での実習を行っている。学生の受け持つ患者の選定及び、臨床現場での学生の看護援助、各種カンファレンス運営は、実習指導者と共に行い、学生の主体性が伸びるようファシリテートした。1クール2週間、学生5～6名を担当し、それを4クール行った。
3	総合実習		2025年4月～7月	学生の主体的な学習態度を形成でき、実習展開を促進する目的で、文献抄読会及び実習計画作成等のゼミを行い、個別・グループ指導した。対面実習のため、実習指導者との事前連絡調整を綿密に行い、学生の看護実践能力に関わる課題および実習目標を共有し、実習のあり方について相互に理解できるよう努めた。
4	IPW実習		2025年9月～10月	施設FTおよび同施設の教員FTと協力して臨地実習の準備に取り組んだ。2チーム学生10名が協力し合えるよう、学びが深められるようにリーダーとして調整した。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2025.4～2026.1	主指導	2名 副指導 名
2	修士論文	2025.4～2026.3	主指導（指導教員）	1名 副指導（指導補助教員） 1名
3	博士論文	2025.4～2026.3	主指導（指導教員）	名 副指導（指導補助教員） 1名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし			
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	メディカルトピア草加病院看護研究指導（対面開催）	メディカルトピア草加病院看護部	4つの看護研究課題について、看護研究指導を行った。院内の研究発表後、院外の学術集会または研究会への発表、論文作成を支援した。	2025.4～7 2026.1～3
2	メディカルトピア草加病院看護研究発表会講評（対面開催）	メディカルトピア草加病院看護部	4つの看護研究課題（看護係長、2つの病棟、外来）について、院内研究発表の講評を行った。	2025.7
3	埼玉県立大学 専門職連携を学ぶ講座「チームビルディング研修」	埼玉県立大学	教員4名で分担して担当。研修のリーダーとして企画・運営・講師を実施した。講師として、チームおよびチームビルディングの理論と背景に関する講義、演習を担当した。	2025.5

4	埼玉県立大学 専門職連携を学ぶ講座 「チームワーク研修」	埼玉県立大学	教員5名で分担して担当。研修のリーダーとして企画・運営・講師を実施した。講師として、チームおよびチームワークの活性化や推進に関する背景に関する講義、演習を担当した。	2025.5
5	埼玉県立大学 専門職連携を学ぶ講座 「多職種チームによる事例検討」	埼玉県立大学	教員4名で分担して担当。2回コース。講師を担当した。講師として、IPWとリフレクションを担当した。	2025.9～10
6	産学連携と研究シーズ（Web・冊子）	埼玉県立大学	看護チーム連携とインクルーシブケア促進の研究を紹介している。	2025.4
7	社会福祉法人誠会及びNPO法人誠会の職員研修「チームビルディング研修」	社会福祉法人誠会・NPO法人誠会合同	各法人誠会の要望に応じて、すべての職員対象のチームビルディング研修を2日程で実施した。1日程につき同内容を2回。講師5名。講師役の他、企画・運営・プログラムを提案するなど、リーダー役割を担った。参加者約60名。	2025.5、6
8	埼玉県立大学専門職連携教育研修センター「専門職連携を基盤にした保健・医療・福祉事業所の経営者と管理者のための実践的マネジメント講座」	埼玉大学 埼玉県立大学	令和6年度人材育成推進事業費補助金「彩の国Komvuxプラットフォーム」事業（埼玉大学）の一環として実施された講座である。保健・医療・福祉経営者と管理者を対象に、現場の人材不足の問題対応やサービスの質向上に不可欠な実践的なマネジメントスキルを高めるための講座を担当した。埼玉県立大学専門職連携教育研修センターが請け負った。オンデマンド講座（3月10日～31配信）	2026.3
9	第1回 産学官金協働による「彩の国Komvuxプラットフォーム」シンポジウム	埼玉大学	パネルディスカッション「リカレント教育の現状と未来への展望」のパネリストとして、保健医療福祉分野の現状と課題、本学専門職連携教育研修センターの取組について紹介した。	2026.3
10	IPW（多職種連携）ワークショップ	彩の国連携力育成プロジェクト（SAIPE）	ワークショップの運営を担当した。Sai_UPPs（SAIPE+埼玉県+県内の保健医療福祉等の職能団体）の企画として実施された。事例づくりでは、既存の模擬患者事例を基盤に、より実践的な多職種連携の教材作成を目指している。	2026.3
11	令和7年度 埼玉未来大学「介護を考える」	公益財団法人いきいき埼玉	講演の主な内容は、「介護する側と介護される側の双方についての理解を深めるとともに、自分ごととして介護について考えることを目指す。」である。講演後の複数の質問にも対応した。参加者約100名。	2026.2
12	オープンカレッジ講座	看護学科老年看護学領域	清透祭にて、卒業生交流会（老年看護学領域）「看護職のキャリアアップについて考える」を開催した。	2025.10
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	埼玉労働局 職業安定部訓練課	埼玉県地域職業能力開発促進協議会構成員 職業能力の開発及び向上の促進の取組の共有、意見交換（埼玉県立大学専門職連携教育研修センター長任務、年2回会議参加）	2025.10.1～ 2026.3.31	
2	越谷市役所 都市整備部 都市計画課	越谷市開発審査会委員 ・年1回審査会参加	2025.4.1-2026.3.31	
3	草加市総合政策部 人権共生課	草加市男女共同参画審議会委員（副会長） ・年3回審議会参加	2019.4-2026.3	
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			

(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	社会福祉法人インクルふじ	法人設置から現在に至るまで、保健医療福祉分野の専門家の立場から後方支援を行っている。	2004.1～現在
2	産業支援	ラジエンスウエア株式会社	埼玉県立大学共同研究「一般病院の看護業務におけるAIロボット応用に関する研究」を通して、ラジエンスウエア社による看護業務のサポートロボットの開発を支援している。3か月に1回定例ミーティング（オンライン）開催。	2021.12～現在
3	地域貢献活動	富士宮市心身障害児家族会 さんざしの会	さんざしの会の賛助会員として会の活動をサポートしている。	1996.10～現在
4	地域貢献活動	越谷市保健所	越谷市IHEAT要員（国のIHEAT運用支援システムに登録し、越谷市保健所への支援の要請を受ける旨の承諾をした外部の専門職をいう。主に感染症まん延時における積極的疫学調査等の業務を行う。）として、年2回活動した。令和7年度越谷市IHEAT要員向け実践型訓練① 感染症患者対応訓練（6月）、令和7年度埼玉県疫学調査研修（IHEAT応用研修）（10月）	2024.12～現在
5	国際協力事業	一笑苑	戸田市および所沢市にある中国語対応通所介護施設および有料老人ホームにおいて、高齢な中国帰国者および日本在住の中国人を支援する施設長および管理者へのインタビュー調査を通して交流支援を実施した。	2026.1
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	専門職連携教育研修センター主催の第1回IPEアドバイザー会議を実施し、林学長、IPEアドバイザー5名、IPEセンター員と、本学のIPEの現状と課題、改善方針について意見交換を行った。第2回IPEアドバイザー会議は、田中理事長の講義収録（埼玉県立大学専門職連携教育研修センター「専門職連携を基盤にした保健・医療・福祉事業所の経営者と管理者のための実践的マネジメント講座」のうち、「地域包括ケアを動かすマネジメントと専門職連携の力(20分)」）と同時開催とした。企画・運営を担当した。		2026.3
2	全学的委員会及びセンター業務等	第3回教職員研修(SD研修)「2026年度の取組について～専門職連携教育研修センター～」を担当した。		2026.3
3	全学的委員会及びセンター業務等	高等教育開発センター・専門職連携教育研修センター共同FD「IPE科目の発展的で持続可能な運営に向けた優先課題と次年度の方向性」の企画・運営、当日の司会進行、実施評価を担当した。		2026.3
4	全学的委員会及びセンター業務等	第3回教職員研修(SD研修)「2026年度の取組について～専門職連携教育研修センター～」を担当した。		2026.3
5	全学的委員会及びセンター業務等	専門職連携教育研修センターのニュースレター「IPE center Newsletter」を発行した。チームビルディング研修、チームワーク研修、誠会人材育成支援チームビルディング研修と「チーム」を特集した。企画・作成を担当した。		2025.10
6	全学的委員会及びセンター業務等	教員人事委員会委員担当（同案件の審査2回参加）		2025.9 2025.12
7	全学的委員会及びセンター業務等	教員採用選考にかかる資格審査会委員担当		2025.11
8	大学広報活動	埼玉県立大学オープンキャンパス看護学科ミニ講義「目標志向の高齢者看護とは」を担当した。		2025.11
9	学科等における委員会等	看護学科ハラスメント防止プロジェクトチームとして活動した。研修「－開放的コミュニケーションのために－『アサーション入門』」の運営を担当した。		2025年4月～2026年3月

10	大学広報活動	高校出張講座実施依頼（浦和学院高等学校） 講座テーマ：障害児・者の生活を地域で支えることについて 受講対象：2年生（保健医療コース）32名 100分の講義（質疑応答含む）、他10分休憩	2026.1
11	全学的委員会及びセンター業務等	学部カリキュラム検討部会委員（専門職連携教育研修センターIPE科目担当者会支援）	2025.4-2026.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		